



## 留萌市農林水産業振興基本計画

### 要約版

平成 26 年 12 月

編集 留萌市地域振興部農林水産課

〒077-8601 留萌市幸町 1 丁目 11 番地

TEL0164-42-1837 FAX0164-42-7865

## 留萌市農林水産業振興基本計画

～「留萌ならではの創造する」～

### 計画策定にあたって

**留**萌市の農林水産業は、日本海の豊富な水産資源と、留萌川とその支流がつくる肥沃な大地とともに、緑豊かな山々から流れる水の恵みを最大限に活かしながら、市民に安全で安心、新鮮で高品質な「食」を提供し、産業の形成や、健全な食生活を目指す食育の推進など、多岐にわたって重要な役割を果たしています。

また、生産活動の場である農山漁村は、国土や自然環境を保全し、その美しい景観は、市内外から訪れる人々にやすらぎや癒しを与えるなど、様々な機能を発揮しています。

しかしながら、農林水産業を支える農業者や漁業者などの減少や高齢化、安い輸入農水産物の増加による価格の低迷、国の農林水産業に対する政策の見直しと転換、環太平洋パートナーシップ（TPP）協定や経済連携協定（EPA）、自由貿易協定（FTA）交渉の動きなど、農山漁村を取り巻く情勢は厳しさを増しています。

これら情勢の変化や直面する様々な課題などに的確に対応するとともに、これまで本市の農林水産業を支えてきた農業者や漁業者などが、将来に向け自信と希望、そして誇りを持って取り組んでいける産業を目指し、留萌市農林水産業振興基本計画を策定しました。

計画期間 平成 26 年度～平成 33 年度までの 8 年間



# 留萌市農林水産業を取り巻く情勢と課題

- ・経済基盤の弱い農山漁村では、依然として厳しい状況が続いており、少子・高齢化が進行、労働人口の減少など、本市農林漁業をはじめとして、産業・経済・社会の様々な面での影響が懸念されています。
- ・食の安全・安心に関する消費者の関心がますます高まっており、身近で生産者の顔が見える生産物を安心して消費する「地産地消」の意識が高くなっています。
- ・国民のライフスタイルの変化により、食に関する消費者ニーズが多様化しています。また、都市住民を中心に農山漁村での体験型・滞在型の旅行ニーズが増加しており、地域の自然、食文化、歴史とのふれあいが期待されています。
- ・国産農水産物の価格が低迷する中で、日本が参加している環太平洋パートナーシップ（TPP）協定については、その動向が注視されています。
- ・国の農林水産業に関わる政策の転換は、本市農林水産業と農山漁村においても、大きな転換期に直面しているといえます。

## 本市農林水産業のめざす姿と政策の展開（4本柱）

### 1.消費者と生産者をつなぐ豊かな農林水産業

#### 【めざす姿】

四季折々に特色ある農畜産物や水産物があり、生産者は他の地域にはない新鮮で良質、そして安心して安全な農水産物を市民に提供してきました。この豊かな食を将来にわたり市民に安定的に供給できるよう、生産者と市民、そして関係団体や行政が強い絆を結んで、新しい農林水産業を創出していきます。

#### 【農業 林業 水産業】

- (1) 市民の豊かな暮らしを支える安全・安心な農水産物の安定・供給を推進します。
- (2) 安全・安心で、高品質な農水産物の生産に向けた取組を推進します。
- (3) 生産者の顔の見える農林水産業を展開し、消費者や実需者のニーズにえる取組を推進します。
- (4) 留萌市食育推進計画に基づき地産地消や食育を推進し、消費者と生産者の結びつきを強化します。
- (5) エゾシカやトドなどによる鳥獣・海獣被害防止対策を推進します。
- (6) 食味や栽培適性の優れた品種や栽培技術等の普及について、農協や北海道等と連携しながら推進します。
- (7) 農水産物の効率的かつ安定的な生産・流通システムの構築を推進します。



| 項目（単位）                | 現状値（H25） | 目標（H33） |
|-----------------------|----------|---------|
| 水稻生産量（t）              | 2,268    | 維持      |
| 漁業種類別漁獲高（t）           | 759      | 維持      |
| 地産地消が推進されていることの満足度（%） | 33.8     | 増加      |
| 学校給食における地元食材の割合（%）    | 41       | 増加      |

### 3.多様な担い手が活躍する豊かな農林水産業

#### 【めざす姿】

従事者は年々減少する傾向にあり、さらに高齢化も進行し、将来の農林水産業の維持・発展に向けて大きな課題となっています。就農及び林業、漁業への就業者の受入対策の推進も含め、人材等の確保と農林水産技術の研修体制の充実など、担い手の育成に努めるとともに、基盤整備事業の推進や地域農業支援組織の構築、高齢者や女性の活躍の場の提供など、多様な担い手が活躍する農林水産業を推進します。

#### 【農業】

- (1) 新規就農者の受入体制の整備を推進します。
- (2) 農業技術や知識取得のための研修体制の整備など、担い手の確保と育成を推進します。
- (3) 農業生産基盤の整備による農業生産力の強化と農業経営の安定に努めます。
- (4) 地域を担う農業生産支援組織等の育成と構築を推進します。
- (5) 優良農地の確保と担い手への利用集積を推進します。
- (6) 高齢者などの就労や加工・販売などで女性が主体的に活躍できる環境づくりを推します。



#### 【林業】

- (1) 森林組合等、林業事業体の育成と雇用の確保に向け、森林経営計画をはじめとする各種計画の推進と、搬出間伐や森林保育のための林道や作業道などの路網整備を推進します。
- (2) 林業就業に意欲を有する者を対象とした技能技術研修等の活用による新規就業者の確保を推進します。

#### 【水産業】

- (1) 種苗放流事業などによる漁業生産や経営の安定を推進します。
- (2) 新規就業者の受入体制の整備を推進します。
- (3) 漁業の知識や技術取得のための研修体制の整備など、担い手の確保と育成を推進します。
- (4) 加工や販売などで女性が主体的に活躍できる環境づくりを推進します。

| 項目（単位）      | 現状値（H25） | 目標（H33） |
|-------------|----------|---------|
| 新規就農者数（人）   | 0        | 増加      |
| 漁業新規就業者数（人） | 1        | 増加      |
| 林業新規就業者数（人） | 0        | 増加      |

### 2.自然と環境に調和した農林水産業

#### 【めざす姿】

長年にわたり育んできた大地、海、山の恵みを将来にわたり健全に維持し、持続可能な産業として発展させていくため、環境にやさしい農林水産業の育成と、安全・安心を求める消費者などのニーズに応えるための取組を推進します。また、洪水の防止など国土や環境の保全、癒しとやすらぎをもたらす農山漁村の多面的な機能の維持・増進を図るため、農山漁村を守り続ける取組を推進します。

#### 【農業】

- (1) 健全な土づくりや北海道の「YES！Clean」表示制度の普及と拡大による環境にやさしい農業を推進します。
- (2) 粳穀など地域に存在するバイオマス資源を活用した農業生産活動を推進します。
- (3) 農業・農村の持つ多面的機能を維持するため、農地や農業用水等の適切な保全管理などを推進します。

#### 【林業】

- (1) 森林が持つ二酸化炭素吸収など公益的機能の維持を図るため、適切な保育・間伐等や景観の維持・形成に配慮した森林整備を推進します。
- (2) 間伐材を中心とした森林資源の製材以外の有効活用の研究を推進します。
- (3) 美しい里山の保全と林業への理解を図るため、森林教育を推進します。

#### 【水産業】

- (1) 藻場の再生に向けた磯焼け対策を推進します。
- (2) 海、川の生態系の保全と海を豊かにするための森づくりを推進します。



| 項目（単位）                  | 現状値（H25） | 目標（H33） |
|-------------------------|----------|---------|
| グリーン農業者数（YESグリーン認証）（戸）  | 3        | 増加      |
| 低たんばく質米の割合（%）           | 40       | 増加      |
| 間伐材供給量（m <sup>3</sup> ） | 436.1    | 増加      |
| 漁業者による植樹実績（本）           | 50       | 増加      |

### 4.留萌ならではの創造する農林水産業

#### 【めざす姿】

留萌市で生産される農林水産物を、農業者や漁業者などの創意工夫や連携強化を図り、地域のブランドづくり、6次産業化、農商工連携に向けた取組を推進します。また、美しい農山漁村の景観と豊かな「食」など、本市の魅力を最大限に発揮した都市と農山漁村の交流促進や、農林水産業を中心とした福祉などとの連携による就労の場の創出を推進します。

#### 【農業 林業 水産業】

- (1) 農業者や漁業者が、自ら行う直売や加工などの取組を推進します。
- (2) 福祉など多様な主体との連携による6次産業化や農商工連携を推進します。
- (3) 新たな産業創出に向けた農水産物の乾燥加工・開発などを推進します。
- (4) 新たな農水産物の生産や加工品の製造などによる新規需要の開拓を推進します。
- (5) 農産物のハネ品や低知名度、低価格魚介類の有効利用を推進します。
- (6) 留萌の「食」の高付加価値化とブランド化を推進します。
- (7) 冬期間厳しい雪と風に閉ざされる本市において、低コストで安定生産が可能な野菜生産施設等の導入に向けた研究を推進します。
- (8) 自然、景観、食を生かした農山漁村体験など、留萌ならではの都市と農山漁村交流による交流人口の増加を推進します。
- (9) 農山漁村における地域課題解決に向けたコミュニティビジネスの取組を推進します。
- (10) 留萌港を活用した木材の移輸出に向けた取組を推進します。
- (11) 地域材の建築物への利用促進、未利用材を有効活用した製品やバイオマス資源としてのエネルギー利用など、地域材の有効活用に向けた可能性についての研究を推進します。



| 項目（単位）           | 現状値（H25） | 目標（H33） |
|------------------|----------|---------|
| 生産者による野菜直売店数（件）  | 1        | 増加      |
| 生産者による水産物直売店数（件） | 5        | 増加      |
| 農業と福祉との連携事例数（件）  | 1        | 増加      |
| 留萌港からの木材移・輸出力（t） | 16,698   | 増加      |